

# 武士と領民がともに守った城 ～戦国時代の戸次・利光地区～

今から430年ほど前の戦国時代、薩摩(鹿児島県)の島津軍は日向(宮崎県)から侵入し府内の近くまで攻めてきました。そこで、戸次・利光地区の領民たちは自らの生命・財産を守るために武士と共に鶴賀城に立てこもり、島津軍と勇敢に戦いました。この時、鶴賀城の近く戸次川の河原では、大友氏の援軍として秀吉が派遣した、讃岐(香川県)の仙石秀久・土佐(高知県)の長宗我部元親らの連合軍と島津軍との間で激しい戦いが繰り広げられました。



鶴賀城「三の丸」にある石碑(高橋泰夫氏提供)

## 鶴賀城の攻防

大友家家臣の利光宗魚は、領民ら合わせて3000人余りと共に鶴賀城に立てこもり、鉄砲・弓矢、さらに鎌などを武器にして戦いました。10日間ほど立てこもった末に、主将宗魚は敵の不意打を受け命を落としますが、残された兵と領民は一致団結し、島津軍が撤退するまで戦い、城を守りぬきました。

城跡からは、立てこもった際に使われたと考えられる水を入れるための甕の破片や、蓄えられた食糧と見られる炭化した米粒が見つかります。



大友氏に関わる主な城と館

大分市内の主な山城の分布図

## 戸次川の戦いと梅巖和尚

鶴賀城の攻防戦が行われていた時、秀吉の命で大友義統の救援にきた四国の大名は、城のふもとを流れる戸次川(今の太野川)の河原で島津軍と戦いました(戸次川の戦い)。連合軍の敗戦の情報を得た義統は、府内から撤退し、勝利した島津軍は府内へ攻め込みました。

合戦後、中戸次佐柳にある願行寺の梅巖和尚は、地元の領民と一緒に敵味方の区別なく合戦の戦死者を供養しました。現在、寺には合戦で亡くなった長宗我部信親(元親の長子)と利光宗魚の位牌が納められており、信親の墓前では毎年、慰霊祭が行われています。その参列者として遠くは高知県・鹿児島県からも子孫の方々が訪れています。



慰霊祭の様子(高橋泰夫氏提供)

## 大野川合戦まつり



毎年、11月に戸次地区の大野川で、戸次川の戦いを後世に伝えるために合戦まつりが開催されています。